

保育者養成におけるコミュニケーション能力を 育成するための造形教材の開発Ⅱ —学生の“木育”による実践活動を通して—

矢野 真 田 爪 宏 二
(児童学科教授) (京都教育大学准教授)

1. はじめに

本研究は、「保育者養成におけるコミュニケーション能力を育成するための造形教材の開発Ⅰ」¹⁾に引き続き、保育者養成における“木育”による教材が、コミュニケーション能力育成における実践にどのように有効であるかを考察するものである。

「保育者養成におけるコミュニケーション能力を育成するための造形教材の開発Ⅰ」では、保育者養成における“木育”による教材が、造形領域に関わる実践的教材として有効であることが導出された²⁾を受け、現職保育者を中心とした造形活動を取り上げた。ここでは、“木育”による造形活動として、木が保育者に身近となり、幼児のつくる活動に積極的に取り入れることができること、そして触覚や嗅覚などの感覚を重視することができる教材の提案を行うことを考慮した。そこで、切る・組むなどの木の実践における難しさを感じる工程を省いた、紙やすりのみでかたちをつくる「ペンダントづくり」を行うこととした。制作当初は、木を使うことに不安を感じていたようであるが、次第に香りや手触りに魅力を感じ、リラックスしながら楽しむ様子がみられた。実践後は、参加者である保育者の多くが木について興味を持ち、保育で実践しようとする声も聞かれたこと、また、“木育”のもつ特性が保育者や子どものコミュニケーション・スキルの向上につながる可能性が考えられ、コミュニケーション能力を高める教材として、保育における効果が実感できるものとなった。

2. 本研究の目的

以上のことを踏まえて、“木育”による教材がコミュニケーション能力育成における実践にどのように有効であるかを考察するため、本研究ではまず、実際の保育者養成校で学ぶ学生106名を対象に実施した“木育”を活用した造形活動を報告する。さらに、質問紙法から明らかとなる“木育”による教材に対する感情の活性化やリラクゼーション効果と、“木育”を活用した造形活動のコミュニケーションや創造性に対する効果に関するイメージを調査し、“木育”による実践の効果を検討する。

その結果から“木育”による実践の効果に関して、“木育”による教材のリラクゼーション効果と、“木育”を活用した造形活動の、コミュニケーションや創造性に対する効果に関するイメージを測定し、検討を行うことを目的とする。

そこで、現職保育者と同様に、次の点に着目した。

●保育教材としての木が、保育者に身近となり、幼児のつくる活動に積極的に取り入れていくことができるような導入となる教材を提案する。

●教材として、触覚や嗅覚などの感覚を重視することができるものを提案する。

3. “木育”による教材を使った造形活動

3-1. 対象

K女子大学における保育者養成の授業、ここでは平成28年度前期「児童文化化学実習Ⅰ」(写真1)における“木育”による実践(90分×2

コマ×5回、3クラス分割)を受講した学生106名。

3-2. 実践内容

“日本は木の文化である”ということを知識として理解したのち、再利用材として地元の木材加工業者から提供された木材(ヒノキ・スギ)を使い、「子どもとあそぶための玩具の制作(年齢は任意)」を行った。分析対象の学生は、保育者に行った「ペンダントづくり」と同内容を他の授業「保育内容演習(造形表現)」ですすでに行い、“木育”について理解しているため、その展開として今回の玩具制作を選択した。

実践後、保育者における実践と同様のイメージを測定し、検討を行った。



写真1 学生による制作の様子

3-3. “木育”による造形活動の様子

近隣の木材加工業者から提供された京都産の再利用材(ヒノキ・スギ)を使い(写真2)玩具制作を行った。

他の授業において、保育者と同様の「ペンダントづくり」を行った時と同様、素材のもつ特性や鋸・木工やすりの道具の使い方などを学生同士で話したり、技術的なことを助言・補助するなど、コミュニケーションをはかりながら制作が進む姿がみられた(写真3)。

また、個人での制作ということもあり、木を扱うことに抵抗を感じている学生も多く、つくるものを計画する段階(写真4)では小品が多

かった。しかし、お互いにつくるものを話し合う時間を設ける中で、それぞれのイメージが助長される姿もみられた。さらに、実際に木材を加工することをお互いが確認していくことにより、細かい仕組み(写真5)や大きな作品(写



写真2 使用したスギとヒノキの再利用材



写真3 学生同士で助言しながら、制作が進行する様子



写真4 再利用材を使用して制作するものを計画する

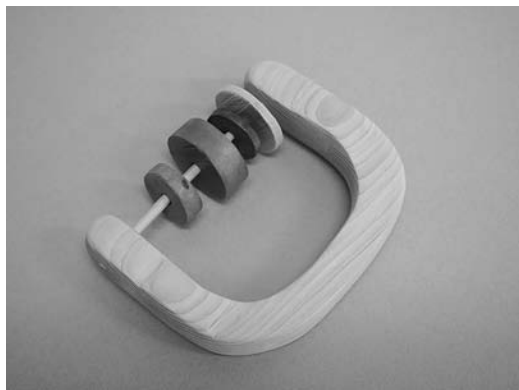


写真5 学生作品①—乳児のための玩具



写真6 学生作品②—乳幼児の玩具

真6)に挑戦する姿もみられ、保育者養成の授業作品としては、かなり高いレベルの作品もみられた。

4. 質問紙からみる“木育”による教材のリラクゼーション効果および“木育”を活用した造形活動のイメージの検討

4-1. 調査の目的と方法

ここでは、本研究で使用した“木育”による教材に対してどのようなリラクゼーションを感じたか、また実践の感想としての“木育”を活用した造形活動のイメージとリラクゼーション効果との関係を検討する。

全ての授業の終了後、質問紙調査を実施した。以下では、設問ごとにその内容と分析結果を述

べる。

4-2. 設問1“木育”による教材のリラクゼーション効果

木育による教材に関わった感想に関して、リラクゼーション効果を測定する尺度であるアラウザルチェックリスト³⁾を実施した。全般的活性 (GA:活発な, など), 脱活性-睡眠 (DS:うとうとした, など), 高活性 (HA:どきどきした, など), 全般的脱活性 (GD:くつろいだ, など) の, 4因子(各4項目ずつ, 4件法)からなる。各因子項目の平均値を尺度得点とした。

アラウザルチェックリストの4因子の尺度得点尺度得点の平均値と標準偏差を表1に示す。1要因分散分析により尺度得点を比較した結果、主効果が有意であり ($F(3,315) = 115.41, p < .001$), 多重比較(有意水準5%のTukey法, 以下同じ)の結果, GAの得点が最も高く, 次いでGDが高く, DSおよびHAの得点は低かった。つまり, 本講義で使用した“木育”による教材は, GAにみられる活動の活性化, 活発さを促す効果が得られ, DSにみられる退屈さやHAにみられる不安, 緊張を低減させたといえる。

表1 アラウザルチェックリストの尺度得点の平均値と標準偏差

| | 全般的活性 (GA) | 脱活性-睡眠 (DS) | 高活性 (HA) | 全般的脱活性 (GD) |
|----|------------|-------------|----------|-------------|
| M | 3.14 | 1.65 | 1.74 | 2.34 |
| SD | (0.58) | (0.44) | (0.61) | (0.84) |

4-3. 設問2“木育”を活用した造形活動のイメージ

質問項目 図1に示す質問項目について, 5件法(5:はい~1:いいえ)で回答を求めた。設問2における回答の分布を図1に示す。学生のほとんどが“木育”についての事前知識を有しており(項目a), 授業後には多くが興味を持ち, 保育に役立つと考えていた(b, d-i)。項目g[“木育”]は, コミュニケーション・ス

- a. “木育”という語を聞いたことがありますか
- b. “木育”を活用した作品づくりは、今後の保育現場で役に立つと思いますか
- c. “木育”を活用した造形活動に保育者側からの難しさを感じますか
- d. “木育”は、子どもの創造性を発展させることにつながると感じましたか
- e. “木育”は、子どもとのコミュニケーションを取ることに役立つと感じましたか
- f. “木育”は、保育者の技能向上や創造性の発展につながると感じましたか
- g. “木育”は、コミュニケーション・スキルの向上に役立つと思いますか
- h. “木育”を活用した造形活動について、もっと知りたい、参加したいと思いましたか
- i. 今後、“木育”を保育現場に取り入れてみたいと思いますか

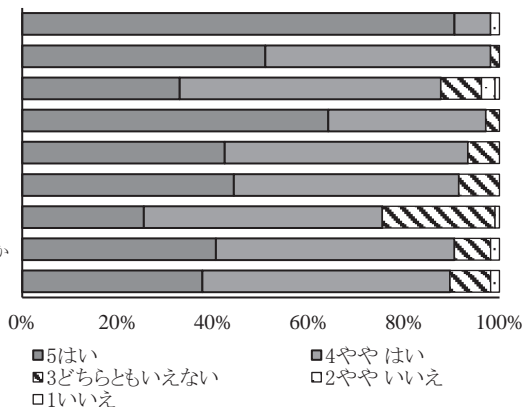


図1. 木育活動のイメージの質問項目および回答の分布

キルの向上に役立つと思いますか」については、8割弱の学生が肯定的であるが、他の項目よりもやや「どちらともいえない」という回答が多かった。

また、“木育”についての肯定的な評価の一方で、項目c「“木育”を活用した造形活動に保育者側からの難しさを感じますか」については、「はい／ややはい」という回答が多く、保育実践への活用の難しさを感じているとも言える。

なお、以降の分析のために、矢野・田爪¹⁾と同様の因子構成により尺度得点を算出した。すなわち、因子1 (図1の項目 e, g, f, d) を「コミュニケーション・創造性の向上 (以下, [コミュニケーション])」、因子2 (図1の項目 h, i) を「“木育”に対する動機づけの高まり (以下, [動機づけ])」とした。なお、本研究における各因子の一致率 (クロンバックの α) は、[コミュニケーション] が .714, [動機づけ] が .865であり、いずれの因子においても内的整合性は高いといえる。各因子項目の得点の平均値をその因子の尺度得点とした (表2)。尺度得点について、平均値 (M) + 0.5標準偏差 (SD) を基準に対象者を高／中／低群に分類した。

4-4. 設問3 “木育” を活用した保育についての感想 (自由記述)

「木」を活用した造形活動について、保育現場ではどのような可能性があると思いますか」

表2. 「木育による活動のイメージ」の尺度得点と高／中／低群の内訳

| | | 高群 | 中群 | 低群 | 全体 |
|------------------|-----------|--------|--------|--------|--------|
| [コミュニケーション] | <i>N</i> | 29 | 37 | 40 | 106 |
| コミュニケーション・創造性の向上 | <i>M</i> | 4.93 | 4.39 | 3.85 | 4.33 |
| | <i>SD</i> | (0.11) | (0.13) | (0.22) | (0.46) |
| [動機づけ] | <i>N</i> | 32 | 61 | 13 | 106 |
| “木育”に対する動機づけの高まり | <i>M</i> | 5.00 | 4.16 | 3.04 | 4.27 |
| | <i>SD</i> | (0.00) | (0.23) | (0.52) | (0.65) |

と質問し、木育を活用した保育についての自由記述を求めた。

設問3に対する自由記述の回答内容について、本研究では、コミュニケーション能力の側面に注目するため、設問2の因子1 [コミュニケーション] の高低に基づき分類し、それぞれの記述の特徴についてプロトコルの分析を行った。以下に、代表的な記述の例を挙げる。

[コミュニケーション] 高群の記述例

- ①落ちていた木の枝や葉っぱを使って人の顔を作る。様々な形の木の枝など自然のものを何かに見立てて作ることで、想像力・創造力を豊かにすることができる。
- ②私は「木」を活用して、子供たちと一緒にできる遊びが保育現場でできるのではないかと考えました。(略)簡単に切れたり削れるだけの活動なら一緒に楽しめてコミュニケーションにもつながると思いました。具体的に

はこれからの季節キャンプに行ったり、野外活動も増えるので、簡単なランタンを作る活動を考えました。

- ③まわりの友達が「いいね」「こうしたらいいと思う」など声をかけてくれて、もう少し頑張ろうという気持ちが沸き、自分でも納得できるようになってきたり、達成感に繋がっていききました。保育の現場でもこれは木に限りませんが友達と関わることから様々な気持ちの芽生えがあり、大切なことだろうと考えました。
- ④子どもが木を使って造形する際、他の子どもとのコミュニケーションが普通の造形より増えるのではないかと考えます。造形をする時には主に視覚しか使わないと思いますが、「木を」使用するときには視覚・嗅覚・触覚をたくさん働かせることが多いです。

[コミュニケーション] 低群の記述例

- ⑤今回、木を使った造形活動をしてみて、保育現場で同じように行うことは難しいと思いましたが、場合によってはのこぎりを使ったりしてみると子供が道具の正しい使い方や危険性に気づくことができるという点において良い事だと感じました。
- ⑥このように木の造形活動は様々な経験や学び友達とのコミュニケーションを図ることができるなど多くの学びがありました。私たちが行った活動と全く同じことを保育で行うことは難しいと思いましたが、簡単な木の造形活動なら取り入れることができるのではと思います。
- ⑦自分が保育者だったらと考えて難しそうだと感じたのは、木を使って子どもがどのように作るかです。木を切ったりするのは難しいから保育者がやるべきだと思うけど、私は木を切ることも大切だけど少し楽しく感じたから、子どもにもその気持ちを感じてほしいし、造形は考えるのが難しいと思いました。
- ⑧加工が簡単ではなかったり木の粉がでることで掃除、アレルギーの配慮が必要だったりということもありますが、自然の物である木に

触れ造形活動を行うことは、紙や粘土を使った時とは違った感じ方、可能性があると思います。

まず、[コミュニケーション]の高群、すなわち今回の講義によりコミュニケーション・創造性の向上がみられた者においては、肯定的な意見が多くみられた。具体的には、作品のイメージ(①②：自由記述の表の番号、以下同じ)や、保育へ導入することの効果(③④)についての具体的な記述がみられた。

その一方で、設問2の[コミュニケーション]の低群の記述をみると、保育へ導入することの難しさについて述べられた意見がみられる。具体的には、木育による活動に一定の理解や意義は感じつつも、授業内容を保育に応用すること(⑤⑥)、造形の内容(⑦)や安全、配慮の面(⑧)などに難しさを感じている様子が見られる。

4-5. 木育の活動イメージからみた、“木育”による教材のリラクゼーション効果の差異

ここでは、“木育”による教材のリラクゼーション効果の、木育の活動イメージからみた差異について検討する。具体的には、木育による活動イメージ(設問2)の各因子の高低による、アラウザルチェックリスト(設問1)の各因子の尺度得点の比較を行った(図2, 3)。

1要因分散分析の結果、まず、因子1[コミュニケーション]においては、GAの主効果が有意であり($F(2,105)=4.44, p<.05$)、多重比較の結果、高群は低群よりも尺度得点が高かった。すなわち、木育による活動に対してコミュニケーション・創造性の向上の効果を認識しているものほど、木育による教材に対してはGAにみられる活動の活性化、活発さを促す効果を感じていると言える。

次に、因子2[動機づけ]においても上と同様に、GAの主効果が有意であり($F(2,105)=3.47, p<.05$)、多重比較の結果、中群は低群

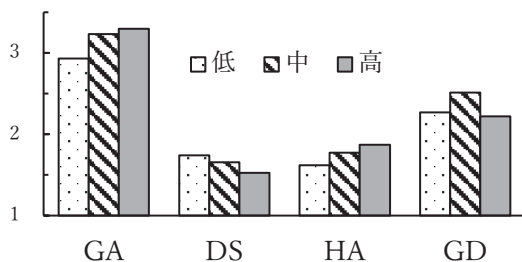


図2. 木育による活動のイメージの因子1 [コミュニケーション]の高低による、アラウザルチェックリストの各因子の得点の差異

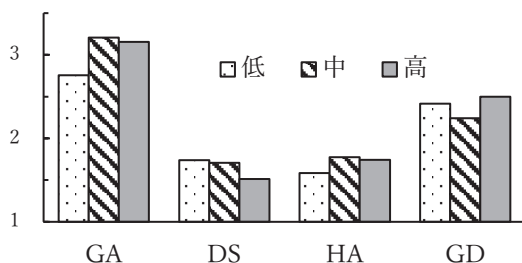


図3. 木育による活動のイメージの因子2 [動機づけ]の高低による、アラウザルチェックリストの各因子の得点の差異

よりも尺度得点が高かった。また、DSの主効果に有意傾向がみられた ($F(2,105) = 2.38, p < .10$)。[動機づけ]は全体的に尺度得点が高く、高低群間の人数も均等でないため、解釈には慎重でなければならないが、授業の結果木育による活動に対して動機づけが高まった者、GAにみられる活動の活性化、活発さを促す効果やコミュニケーション・創造性の向上の効果を認識しているものほど、木育による教材に対してはGAにみられる活動の活性化、活発さを促す効果を感じ、DSにみられる退屈さを感じていないと考えられる。

4-6. 分析のまとめ

以下では、本研究の分析結果について、現職保育者を対象に行った同様の調査の結果¹⁾と比較しながらまとめることにする。

まず、設問1から、“木育”による教材は、活動の活性化、活発さを促す効果が得られ、退屈さや不安、緊張を低減させた。一方、現職保

育者においては、退屈さや不安、緊張の低減については共通しているものの、活動の活性化を示す全般性脱活性 (AD) よりもリラクゼーションの効果を示す全般性脱活性 (GD) が高くなっていた。つまり、“木育”による教材に対して、学生は主に活発さを感じ、保育者は主にリラクゼーションを感じる事が考えられる。

設問2から、授業終了後には多くが興味を持ち、保育に役立つと考えていた。この点については、保育者においても同様の結果であった。

また、今回の授業によりコミュニケーション・創造性の向上がみられた者においては、作品のイメージや保育へ導入する効果などに肯定的な意見が多くみられた。しかし、造形の内容や安全、配慮の面など、学生は保育者よりも“木育”を保育に導入することに難しさを感じていること、またコミュニケーション・スキルの向上に役立つかという質問に対して、どちらともいえないという回答もあった。これには今回の実践における技術的な難しさが一要因であったことが考えられ、「ペンダントづくり」のように“手触り”や“香り”などの感性を重視する活動を考慮する必要があったことが反省として挙げられる。

5. おわりに

以上のように、今後は木育による造形活動を保育に導入することへの検討課題をクリアしながら、“木育”を学んだゼミ学生を中心に、実際に“木育”による活動で、また“木育”の活動を活かした他の教材を使うことによって、幼児とかかわる上でどのような効果がみられるかということに合わせて検証していきたい。

引用・参考文献

- 1) 矢野真・田爪宏二 (2017). 保育者養成におけるコミュニケーション能力を育成するための造形教材の開発 I. 京都女子大学発達教育学部第13号
- 2) 矢野真・田爪宏二・松井勅尚 (2014). 保育者養成における実践的教材としての“木育”―学生の「学び」の深まりを中心に, 京都女子大学発達教育学部第10号
- 3) 畑山俊輝・Antonides, G.・松岡和生・丸山欣哉 (1994). アラウザルチェックリスト (GACL) から見た顔のマッサージの心理的緊張低減効果 応用心理学研究, 19, 11-19.

付記

本研究は、平成29年度科学研究費 基盤 (C) 研究課題 (課題番号: 15K04324) 「保育者養成におけるコミュニケーション能力を育成するための造形教材の開発」(研究代表者: 矢野真, 分担者: 田爪宏二) の補助を受けて行われたものである。

